

○交流プログラムの背景

- 地球規模の気候変動が進むなか、持続可能な地域社会の形成が喫緊の課題
- GXに関わる地域課題の解決に挑戦できる人材の育成は急務



- 課題解決に向けて多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生み出すことを促す学びの必要性
- GXに関わる諸課題を対象に、「知」のグローバルな共有と「知の活力」を生み出す

○交流プログラムの主たる目的

地域の課題解決に必要な「知」をグローバルな視点で捉えることができる人材の育成

○交流プログラムの特徴

○段階的な学習ステップとTeam Based Learning(TBL)の活用

STEP1 : COIL科目とJV-Campusを通じてGXに関わる地域課題の基礎を学習

STEP2 : 集中オンラインコースの履修による課題発見力の習得

STEP3 : オンラインと実渡航を組み合わせたTBLによる課題解決力と発信力の習得

○学生が入りやすい環境と交流の拡大（メタバースの活用）

→上記各学習ステップへの導入による学生交流の拡大

→Language Exchange Programによる能力に応じた英語学習

○交流プログラムのアウトカム

異文化理解力、多文化共生力、課題発見力、課題解決力、課題発信力を備え、GXに関わる地域課題解決のための「知」を循環させながら持続可能な社会の形成に挑戦できるグローバル人材の育成

GXに関わる地域課題解決への挑戦 地域課題に関わる『知』の循環

GXに関わる地域課題
(一次産業を主とする地域課題例)



持続可能な林業と
地域脱炭素



省エネルギー農業の普及



水産業における
ブルーカーボン等の普及



畜産廃棄物によるバイオガス

○交流プログラムの概要と特徴

○本プログラムにおける大学連携：国内4大学、海外（米・台・韓）5大学

○段階的な学習ステップとTeam Based Learning(TBL)の活用

STEP 1: COIL科目とJV-Campusを通じてGXに関わる地域課題の基礎を学習

本プログラムでは、COIL科目を3カテゴリー（入門COIL、拡張COIL、強化COILに分けて段階的に科目内容の充実を図り、地域課題の基礎を学ぶ

STEP 2: 集中オンラインコースの履修による課題発見力の習得

集中オンラインコースを設定し、交流学生はSTEP 1で学習した内容と課題探求を通じてGXに関わる地域課題を発見する力を身に着ける

STEP 3: オンラインと実渡航を組み合わせたTBLによる課題解決力と発信力の習得

派遣先および受入先の学生とチームを組み、STEP 1とSTEP 2で学習したGXに関わる地域課題の解決に必要なフィールドワークを実施。チームで協働して課題解決策を模索し、その成果を社会に発信する

○学生が入りやすい環境と交流の拡大（メタバースの活用）

(1) STEP1~STEP3の学習ステップへの導入による学生交流の拡大

(2) Language Exchange Programでの活用

学生が主体的かつ自分の語学力にあったに英語学習に取り組める環境として、メタバースを活用した3段階のLanguage Exchange Programを実施する。

1) Classroom Language Exchange

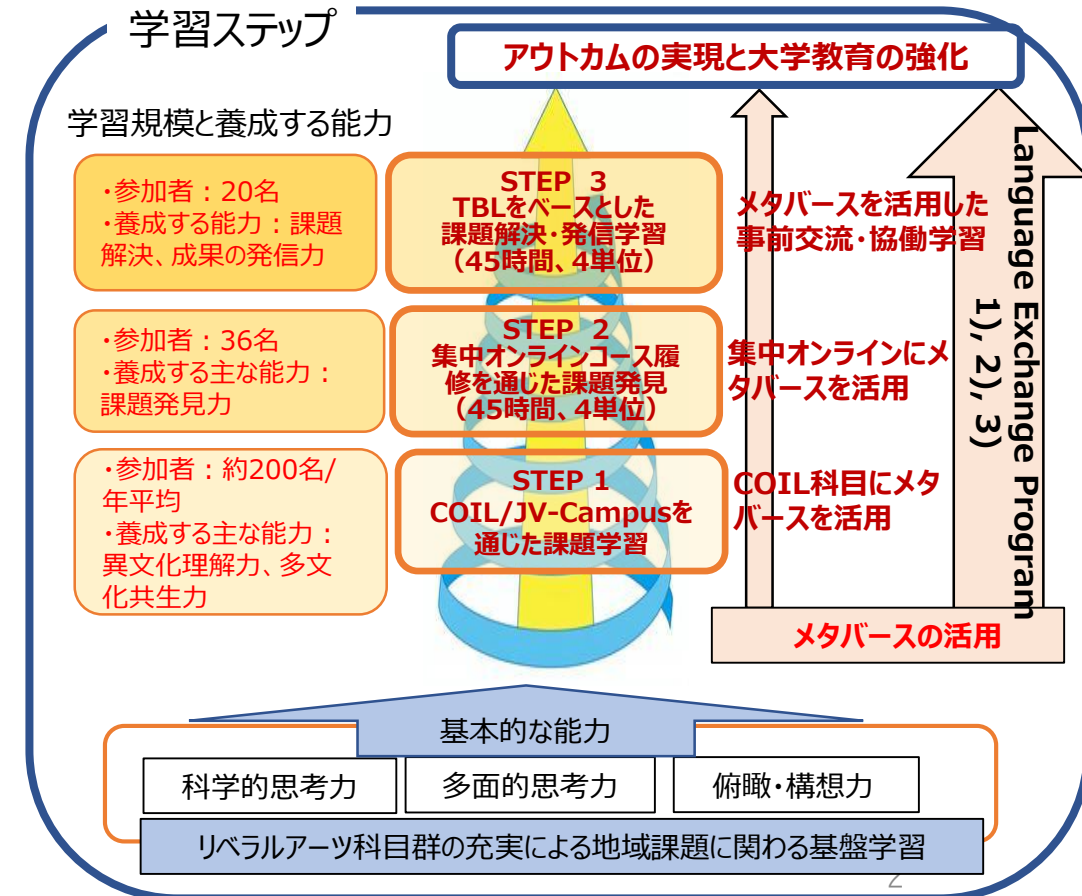
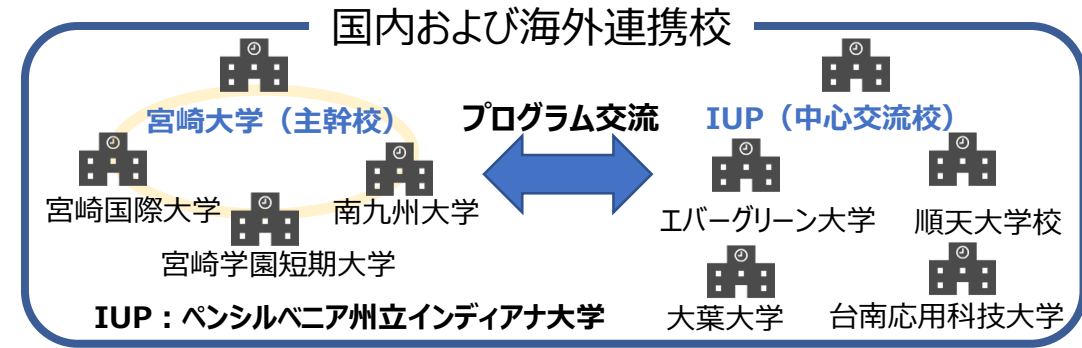
5~6人程度のグループで地域課題に関して英語でのコミュニケーションを促す

2) Student Group Language Exchange

10名程度で自主的に決めた地域課題について英語で議論する場を提供

3) Personal Language Exchange

海外相手大学の学生とペアを組み地域課題について英語で意見交換する



○養成する人材像

リベラルアーツを中心とした基礎教育で身に着けた科学的思考力や多面的思考力等を基盤に、**異文化理解力、多文化共生力、課題発見力、課題解決力、課題発信力を備えたGXに挑むグローバル人材**を育成する。

○本交流プログラムでゴールとする人材像の具体

異文化理解力を備えた人材：科目履修の過程と学生交流を通じて背景や文化が異なる人々の意図や考えを理解できる人材

多文化共生力を備えた人材：科目履修の過程と学生交流を通じて背景や文化が異なる人々と協力・協調して共通の目標に取り組める人材

課題発見力を備えた人材：課題に関わる基礎学習と課題探求で得られる様々な周辺知識や情報を活用して解決すべき課題を見つけ出せる人材

課題解決力を備えた人材：様々な周辺知識や情報を活用し、ステークホルダーとの調整も考慮したうえで、協働作業を通じて解決策が提案できる人材

成果の発信力を備えた人材：チームで取り組んだ課題の本質を的確に把握し、その内容を他の人々や組織に効果的に伝えることができる人材

○プログラム実施を支援する国内外連携組織

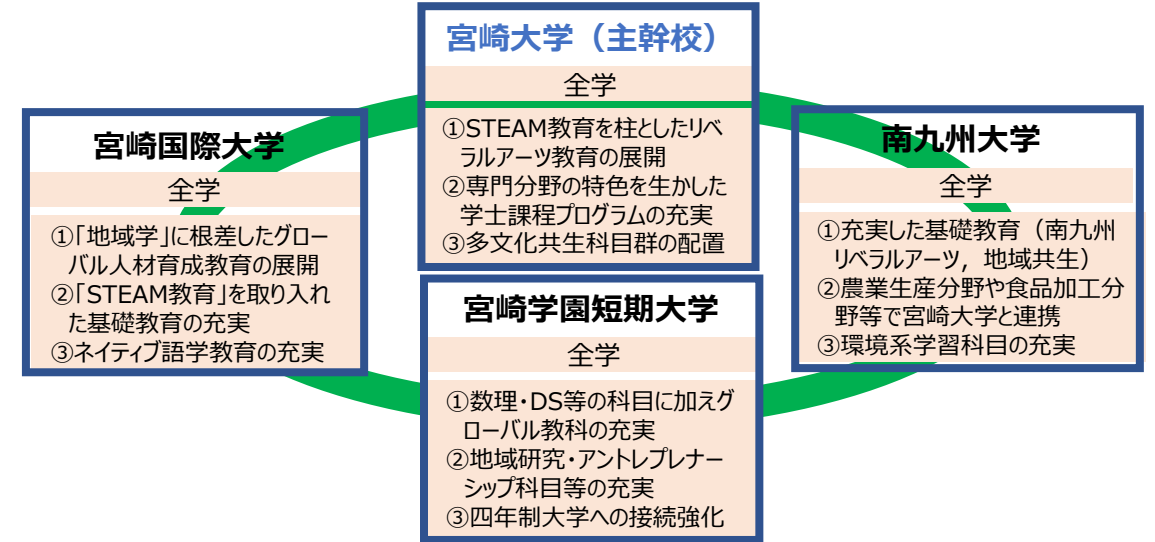
STEP1：在福岡米国領事館，九州地方環境事務所，JICA九州、
在釜山米国領事館，在台北米国文化交流所

STEP2：在福岡米国領事館

STEP3：地方自治体、民間企業NPO等

○実施体制

連携する各大学が持つ特徴を生かして本交流プログラムを実施



本プログラムの運営体制

